

日本環境毒性学会 令和3年度研究発表会



日本環境毒性学会
THE JAPANESE SOCIETY OF ENVIRONMENTAL TOXICOLOGY

開催日程

令和3年 8月26日(木)、27日(金)

- 26日(木) 午前：研究発表(奨励賞審査)
午後：CERI 賞受賞者記念講演、一般研究発表
- 27日(金) 午前：一般研究発表
昼：総会、CERI 賞授賞式
午後：1時～5時：シンポジウム「化審法と環境毒性学の未来」
※学会参加とは別に登録が必要です

開催形式

オンラインによる口頭発表
(Zoom meeting と Slack のインストールが必要です)

参加資格・申し込みの注意点

申込者・発表者は日本環境毒性学会会員または学生会員に限ります。
※ただし、会員以外の方が会員との連名で講演を行うことは可能です。
発表者の方は申し込みと同時に要旨の提出をお願いします。要旨の提出様式は日本環境毒性学会 HP でご確認ください。
化審法シンポジウムへの申し込みは研究発表とは別になります。
参加費：学会員は無料

参加登録

右の URL もしくは QR コードから Google フォームへの登録により参加となります。

環境毒性学会研究発表会

<https://forms.gle/BUVLSTArn3vMaYwz9>



環境毒性学会化審法シンポジウム

<https://forms.gle/GV9LGebgtKDGnma4A>





シンポジウム 化審法と環境毒性学の 未来

主催



企画者

宇野誠一 大嶋雄治 河野久美子 仲山 慶

開催場所

オンライン開催

(質疑応答はチャット及び Slack)

開催日 令和3年8月27日(金)

時間 午後1時～5時

開催主旨

「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」（化審法）は、人の健康や生態系に悪影響を及ぼす可能性がある化学物質による環境汚染を防止することを目的として世界に先駆けて制定された。時が経ち世界各国でも対応が進んだが、日本の環境毒性学では本分野の研究者や研究資金が減少、人材が不足し、海外に比べて研究の立ち遅れが懸念される。また企業側では審査の硬直化、審査に費用や時間がかかりすぎると言う点も指摘されている。本シンポジウムでは化審法のこれまでの歩みを振り返り、現状を検証するとともに、問題点を明らかにして、今後の改革につなげる。

プログラム

| | |
|-------------|--|
| 13:00-13:05 | 【開会挨拶】 |
| | 【基調講演】 |
| 13:05-13:35 | 「化審法制定の背景と歴史」 北野 大（秋草学園短期大学学長） |
| | 【講演】 |
| 13:35-13:55 | 「化審法の概要と施行状況」 藤沢 久（経済産業省化学物質管理課化学物質安全室長） |
| 13:55-14:15 | 「現在の化審法・生態リスク」 久保善哉（環境省 化学物質審査室長） |
| 14:15-14:25 | 休憩時間－10分－ |
| 14:25-14:45 | 「化審法の法制度」 赤渕芳宏（名古屋大学准教授） |
| 14:45-15:05 | 「化審法と環境サイエンスにおける課題とウエイトオブエビデンス導入への期待」 野口具信（シリコン工業会専務理事） |
| 15:05-15:25 | 「研究所から見た化審法と生態毒性学」 山本裕史（国立環境研究所 副領域長） |
| 15:25-15:35 | 休憩時間－10分－ |
| 15:35-17:00 | 【総合討論】 |

連絡先

大嶋 雄治（九州大学大学院 農学研究院 水産生物環境学研究室）

Mail: ecotoxmeeting@gmail.com